

特集 ふるさとの夏を満喫!!

# 南島原市の「海」

夏。それは、南島原市が、一番「南島原」らしい季節です。

ひんやりとした島原手延べそうめん。

突き抜ける青空。

咲き乱れる「ひまわり」。

そして、何より象徴的な「海」。

今月は、「南島原市の『海』」と題して、南島原市の「夏の海」を紹介します。



## 海のマナー

- ① 遊泳区域外での場所では泳がない!
- ② 危険な場所へは立ち入らない!
- ③ 夜間やお酒を飲んでからの遊泳はしない!
- ④ 水中銃、もり等の危険な用具は使用しない!
- ⑤ 小さい子どもだけで遊泳させない!  
保護者は子どもから目を離さない!

待ちました!

# 海開き 7月17日(金)

今年の夏も“海”に出かけよう!

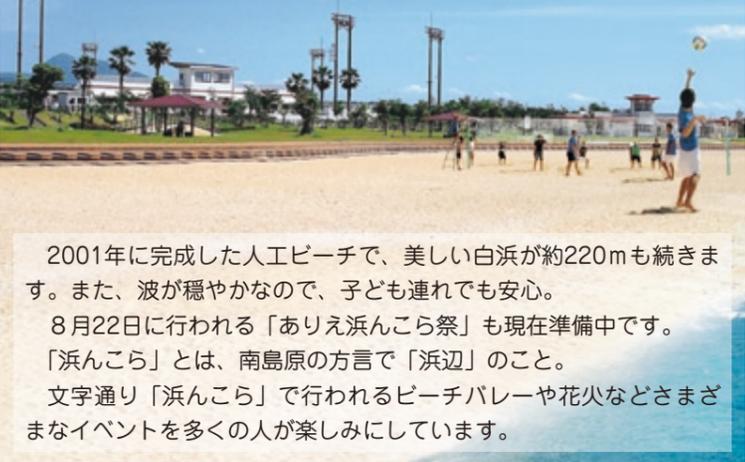
## 口之津町 白浜海水浴場

100 快水浴場百選



白浜海水浴場は日本の快水浴場百選に選定され、松林に囲まれた白い砂浜のビーチ。砂浜の端には岩場もあり磯遊びも楽しめます。

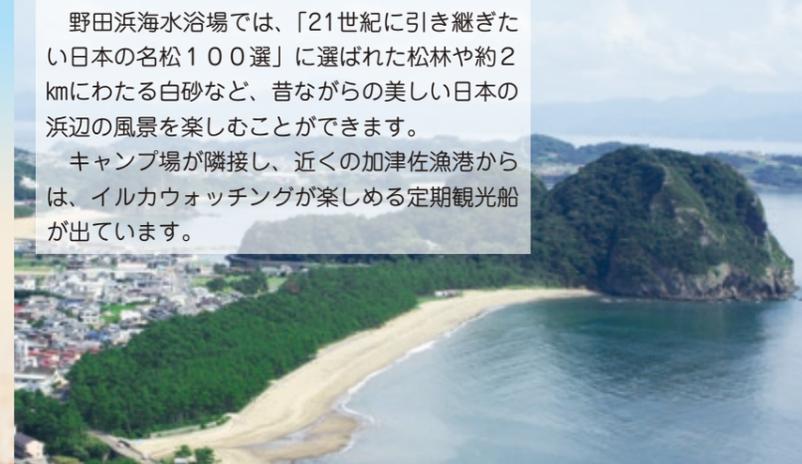
## 有家町 マリンパークありえ



2001年に完成した人工ビーチで、美しい白浜が約220mも続きます。また、波が穏やかなので、子ども連れでも安心。8月22日に行われる「ありえ浜んこら祭」も現在準備中です。「浜んこら」とは、南島原の方言で「浜辺」のこと。文字通り「浜んこら」で行われるビーチバレーや花火などさまざまなイベントを多くの人々が楽しみにしています。

## 加津佐町 野田浜海水浴場

日本の名松百選



野田浜海水浴場では、「21世紀に引き継ぎたい日本の名松100選」に選ばれた松林や約2kmにわたる白砂など、昔ながらの美しい日本の浜辺の風景を楽しむことができます。

キャンプ場が隣接し、近くの加津佐漁港からは、イルカウォッチングが楽しめる定期観光船が出ています。

## 加津佐町 前浜海水浴場



白砂青松で美しい海水浴場。澄んだ海に、遠浅の白い砂浜、涼しげな松林と自然環境に恵まれた美しいところです。シーズンになると、市営棧敷・売店などがオープン。また、近くにはパンガロー村もあります。

# みんなで守る海

〜口加高校・八雲寮など各学校の取り組み〜

## 口加高校の取り組み

例年行われている口加高校と福祉施設八雲寮の海岸清掃が、7月8日(水)に行われる予定です。

この海岸清掃は、昭和45年に始まったもので、当時、観光としての海水浴客が増加していたことや、環境意識の高まりなどから、「ふるさとを美しくしよう」と現在まで続いているものです。

口加高校、八雲寮の清掃は、同時期に始まったにもかかわらず当初別々に活動をしていました。

その後、合同で掃除を行うようになり、現在では、社会奉仕だけでなく、交流も重要な目的となっています。

違う学校と施設の生徒が力を合わせ、海が、ふるさとかきれいになる。

始まりは行事のひとつに過ぎなかったそれは、40年近く続いた今、もはや伝統であり、歴史なのかもしれません。

## 各学校の取り組み

口加高校のほかにも南島原市内の小中学校では、さまざまな活動を行っています。

- 加津佐町野田小学校 7月1日 野田浜清掃、砂の造形
- 口之津小学校 7月2日 白浜海水浴場海岸清掃
- 南島原市吉川小学校 7月3日 吉川海岸清掃
- 西有家町龍石小学校 4月26日 龍石海岸のごみ拾いおよび貝堀り
- 布津小学校 7月4日 布津小学校前海岸清掃
- 深江小学校 6月23日 瀬野海岸清掃
- 南島原中学校 9月18日 大江海岸のごみ拾いと砂の造形



掃除中の海岸。ごみの量にびっくり!

自分たちできれいにする。とてもすてきなことです。

# 口之津港は、そのととた日本の玄関だった

1562年、時の領主、有馬義直がキリスト教宣教師の派遣要請と同時に口之津港を貿易港として開港。この5年後、ポルトガル船が入港し、南蛮貿易が始まるとキリシタン文化が栄えました。しかしながら、これらの遺跡は、島原の乱時に消滅。現在は、キリシタン墓碑が残るのみとなっています。

明治に入り、三池炭鉱(大牟田市)の石炭の中継積み出し港として大いに栄えました。三池は遠浅のため、大型船が接岸できません。そこで、石炭は、天然の良港である口之津港でいったん積み替えられ、石炭は全国、世界へと運ばれました。このため、明治期の口之津港は、船の帆柱が林立し、壮観であったといえます。さまざまな歴史を見守り続けた口之津港。以前と変わらない穏やかな水面とともに、今日も静かに時を刻んでいるのです。

